



ごあいさつ

全国国公立幼稚園 PTA 連絡協議会

会 長 猪 木 直 樹

秋田美人、秋田こまちに象徴される美の国秋田において、第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会 秋田大会に幼稚園教育と幼稚園PTA活動に深いご理解とご支援をいただいております多くのご来賓をお迎えし、さらに全国各地より本会会員並びに幼児教育にかかわる多くの関係者にお集まりいただき、このように盛大に開催させていただくことは、この上ない喜びであります。皆様方に心より深くお礼申し上げます。

最近、政府の教育再生実行会議等による学制改革であったり、幼児期における最終学年の無償化による、いわゆる5歳児の義務教育に向けての検討が始まったりしており、子どもを取り巻く環境が目まぐるしく変化しています。また、その上に子ども子育て支援新制度による施策がいよいよ実行される中、改めて我々保護者は何をどう考え、何を実行していかねばならないかを考え直すときにきていることは明確であると思います。だからこそ今、まさに時は満ち、これまで永年による先人のご努力とご貢献により、積み上げられてきた我がPTA活動の歴史を鑑みて、我が国の幼児教育のあり方を示していく必要があると思います。その子育ての主体者は保護者であり、質の高い幼児教育を提供し続けている国公立幼稚園を守っていくのも我々と保護者の責務であると思っています。そういったすべてのことをこの東北の地秋田から発信することの意義を考えていただけたら幸いに思います。全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、どんな時代が来ようともどんな環境に置かれようとも、不変の心があります。それを貫くべく保護者が子育てについて第一義的責任を有するという基本的認識を改めて確認するとともに我が国の幼児教育の充実発展の根幹を担ってきた国公立幼稚園とその幼稚園教育を守り抜き、これからの明るい豊かな日本を築き上げていくため、この地から発信していきたいと思っております。「今やらねばいつできる」の心を維持して動き出すことを確信しています。

終わりに本大会を開催するに当たり、多大なご支援、ご厚情を賜りました文部科学省をはじめ秋田県、秋田市並びに潟上市、各市町村および各教育委員会関係の皆様、さらに秋田県国公立幼稚園PTA連絡協議会と同園長会、秋田大会運営委員の方々他関係各位に深甚の謝意を表しましてご挨拶といたします。



ごあいさつ

秋田大会運営委員長

大 関 敏 寛

「きょうは、ほんとにえぐ、きてくれだしな。」豊かな自然の恵みと人の温かさを兼ね備えております秋田の地におきまして、第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会「秋田大会」を開催するにあたり、全国各地よりご参会をいただきました皆様に、心より歓迎と感謝の意を申し上げます。また平素より、幼児教育並びにPTA活動への多大なるご支援とご理解を賜りますこと、深くお礼いたす所存です。

今、子ども子育て関連三法案等における幼児教育政策が議論されております。時代の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境も大きく変わり、多様な価値観に翻弄されている社会のように感じます。このような時代だからこそ、私たち保護者を中心に家庭教育の大切さを再確認し、先人より受け継がれた思いを振り返り、子育ての中で大人も学び合いながら生かしていくことが大切であると考えております。子どもを育てることは私たち大人の責任であり、親の果たす義務であります。すべての子どもたちに質の高い幼児教育の環境を提供するには、幼児期におけるPTA活動の重要性と親（大人）育ちが不可欠であることは言うまでもありません。

今大会の主題は『子どもたちの幸せを約束するために ～「絆」たくましく生きる秋田わか杉のふるさと～』と掲げました。どんなに時代が変わろうと社会情勢が変化しようとも、親の思いや地域の大人の願いは、子どもたちの健やかな成長にあります。昨今の繁忙な社会情勢や情報過多の中にあっては、ともすれば人との関わりが希薄になり見失いがちになっているものが、多々あるようにも思います。今大会を通じまして、親子の絆・人との絆、そして地域との絆にしっかり目を向け深めることで、保護者として大人としての役目を果たしていけるのではないのでしょうか。さらに、子どもたちを温かく見守り、子ども一人ひとりの個性を育み、大人たちが子どもの育ちを楽しむ力を注ぐ社会を営々と積み上げ、子育ては親育ちであることをモットーに、子どもと親が自信を持って育み合える環境を進展させていくことは、何よりも私の強い信念であります。

今大会では、保護者の創造性を豊富に活かして、ご参会の皆様へ思いを伝えることをテーマに取り組んでおります。本来、幼児教育の指導要領である、健康・人間関係・環境・言葉・表現を今大会の運営要項に置き換え、私ども秋田大会運営委員会の知恵とパワーにもご注目いただきながら、ご一緒に分かち合えたらと考えております。そして、秋田の美しい大地と自然の中で、子どもたちが伸び伸びと育ち、幸せをかみしめていけるような環境づくりをこの機会に全国に発信していきたいと考えています。秋田大会が、ご参会の皆様にとって幼児教育の本質と今後の教育方針、PTAの在り方を共有理解しながら、「子育て」の一助となっていたいただけたら幸いです。

結びに、今大会の開催にあたり、多くのご支援とご尽力を賜りました皆様に感謝と敬意を表しまして、ごあいさつとさせていただきます。



祝 辞

秋田県知事 佐竹 敬久

第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会が、多数の関係の皆様をお迎えし、秋田県で開催されますことを、心からお喜び申し上げますとともに、全国各地からご来県された皆様方を、心から歓迎申し上げます。また、皆様には、日頃から、PTA活動に熱心に取り組まれておられますことに、深く敬意を表します。

さて、最近では、社会経済のあらゆる分野でグローバル化が加速度的に進展するとともに、新しい知識や技術、情報が活動の基盤となる「知識基盤社会」へと移行してきております。こうした中、我が国が持続的に発展していくためには、何よりも人材育成が重要であり、教育においても、時代の変化に的確に対応していくことが求められています。

教育の目標は、どんな世の中であっても、世界中のどこにいても、たくましく生き抜く力を持った人間を育てることにあると考えており、こうした生きる力の基礎は、就学前の教育・保育と家庭教育で培われることから、本県では、小学校教育への円滑な移行を図る観点から、幼児教育の充実強化に努めております。

しかしながら、子どもたちを取り巻く諸課題は、社会環境に呼応しながら絶えず変化しております。グローバル化により、多くの可能性が拓かれる一方、子どもの健全な成長に様々な影響を与えている現状を踏まえ、園と家庭、地域、行政が一体となって教育を推進していくことが重要であり、PTAの役割は、今後ますます大きくなっていくものと考えております。

こうした中、全国の関係者が一堂に会して研究討議が行われることは、誠に意義深いものがあり、秋田での大会を契機に、全国の会員とのネットワークが広がり、それぞれの活動の充実強化に繋がることを期待しております。

秋田では、今年の10月4日から一ヶ月間、県内25の全市町村を会場に、“文化の国体”とも呼ばれる「国民文化祭」が開催されます。本県は、全国最多となる17の重要無形民俗文化財を有し、伝統芸能・伝統行事の宝庫と言われております。是非、秋の行楽の際には再び秋田を訪れ、文化を旅していただきたいと思っております。

結びに、この大会が、皆様方にとって実り多いものとなりますとともに、ご出席の皆様のご健勝、ご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

秋田県教育委員会

教育長 米 田 進

全国各地からたくさんの皆様をお迎えし、第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会秋田大会が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

皆様方におかれましては、日頃から子どもたちの幸せとその健やかな成長を願い、幼稚園・家庭・地域の連携を保ち、PTA活動に熱心に取り組まれておりますことに深く敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

本県では平成16年度より、教育庁内に幼保推進課を設置し、幼稚園と保育所の行政窓口を一本化して、「秋田の子どもたちの健やかな成長のために～はじまりは乳幼児期から～」という基本的な考えの下、「心・体いきいき、思いきり遊ぶ子ども～豊かな遊びから学ぶ力へ～」を、目指す子どもの姿と捉え、各園のご協力をいただきながら、「秋田わか杉っ子！健やか推進事業」を始め、様々な施策に取り組んでまいりました。

さて、来年度は「子ども・子育て支援新制度」の本格施行が予定されておりますが、仕組みは変わっても、大切にしていけるべき視点は「子どもたちの健やかな育ち」であることに変わりはありません。そして、それを支えるのが「家庭教育」であり「地域の教育力」であります。

現代は家庭教育が困難な時代であると言われております。家庭や子どもを取り巻く環境はますます複雑・多様化し、私たち大人もこの急激な変化に戸惑うことも多いように感じます。こうした悩みや不安を少しでも和らげるためにも、幼稚園・家庭・地域における、これまで以上の連携・協力は欠かせません。また、日頃から家庭や地域での悩みや不安について話し合ったり、情報交換したりできる場や機会をつくることも、PTA活動の大きな役割の一つと言えます。

皆様方には、この大会において活発に意見交流をされ、大会主題にある「子どもたちの幸せ」を約束するために、全国の仲間とともに、未来ある子どもたちの健やかな成長について考え合い、国公立幼稚園PTAの新たな展開や方向性を、この秋田から全国へ発信していただくことを期待しております。

結びとなりますが、全国国公立幼稚園PTA連絡協議会の益々のご発展と会員並びにご出席の皆様のご健勝をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

秋田市長 穂 積 志

第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会秋田大会が、盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、全国各地からお越しいただいた皆様を秋田市民を代表して心から歓迎いたします。

さて、未来に輝く子どもたちの健やかな心身の成長は、誰もが願うところでありますが、子どもたちを取り巻く昨今の社会環境は、少子化の進行や価値観の多様化、高度情報化の進展などにより大きく変化しており、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる幼児期における教育の重要性を改めて認識する必要があると考えております。

このような中、全国国公立幼稚園PTA連絡協議会の皆様におかれましては、昭和38年の設立以来、長きにわたり日本の子どもの幸せと豊かな未来のため、目まぐるしい社会環境の変化に対応しつつ、幼児教育の振興に努められておられますことに深く敬意を表します。

さて、本年10月4日から、国内最大の文化の祭典である「国民文化祭・あきた2014」が本県で開催されます。このたびは、東日本大震災後、東北では初めての開催となることから、本市としては、秋田の伝統芸能や音楽、舞踏・舞踊、美術など多彩なイベントを通じて秋田の魅力を発信するとともに、本大会のテーマ『子どもたちの幸せを約束するために～「絆」たくましく生きる 秋田わか杉のふるさとから～』にありますように、東北の絆、東北の元気をここ秋田から全国各地へ届けたいと考えておりますので、本日お集まりの皆様も、秋の実り豊かな季節に再びご来秋いただければ幸いです。

結びに、本大会の開催にご尽力賜りました関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。



祝 辞

潟上市長 石川 光 男

本日、第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会秋田大会が、全国各地から多くの関係各位をお迎えして、盛大に開催されますことを誠に喜ばしく心から歓迎いたします。

皆様方におかれましては、日頃より幼稚園との連携を図り、PTA活動を通じながら園児たちの健やかな成長と幼児教育の振興発展へ御尽力いただいておりますことに、深く敬意と感謝を表する次第であります。

日本海や八郎潟など豊かな自然に恵まれた本市は、今年、市制施行10周年を迎えました。広大な田園都市を今に拓いた農聖・石川理紀之助翁の故郷でもあり、本市憲章の「先人の熱い魂と深い知恵を受け継ぎ、心を開き共に築こう」を市民の合言葉に、一人ひとりが生き生きと輝ける社会のため、市民一丸となってまちづくりと人づくりを進めているところです。

そのなかでも、次世代を担う子どもたちに、創造性と人間性を育み、質の高い幼児教育を推進するための環境整備に強く取り組んで参りました。

幼児教育は、集団生活での遊びや様々な体験を通じた人間形成のために極めて重要な時期にあります。子ども大人たちが子どもたちの幸せを約束するために、園・家庭・地域、そして行政が密に手を取り合い、時代のニーズなどに対して、的確に情報収集を行いながら取り組んでいかなければなりません。本市においても、さらに充実感と達成感に満ちた地域であるように、より一層努めて参りたいと存じます。

昨今、ライフスタイルの多様化や幼児教育における諸課題が山積するなか、今大会のように皆様方が一堂に会され、PTA活動の充実と連携を深められますことは、誠に意義深いことでもあります。このように研さんを積み、さらに熱意ある活動へと発展し、未来を切り拓く頼もしい子どもたちの成長に繋がるよう御期待申し上げます。

皆様方には、今大会を契機としまして多くの方々との情報交流を深められ、全国国公立幼稚園PTA連絡協議会のさらなる発展に寄与されますよう、併せて益々の御健勝と御活躍を心から御祈念申し上げまして、御祝いの言葉とさせていただきます。



祝 辞

全国国公立幼稚園長会

会 長 岩 城 眞 佐 子

第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会 秋田大会が美の国 詩の国『秋田県』で開催されますこと、誠におめでとうございます。昨年、第51回大会を島根県で開催され、新たな半世紀へのスタートをきられました全国国公立幼稚園PTA連絡協議会の歴史が脈々と続いていくことに、心よりお祝いと感謝を申し上げたいと存じます。強い信念をもち、日本の未来を担う子どもたちの健全育成に力を注ぎながら、確実な事業をすすめられていることに敬意を表します。

平成24年8月に成立した子ども・子育て関連三法は、保護者が子育ての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、幼児期の学校教育・保育や地域の子育て支援を総合的に推進する趣旨であります。これに基づき、昨年度より開催された「子ども・子育て会議」で熱い議論がなされ、平成27年4月より、地域の実情に応じた「子ども・子育て支援新制度」が始まります。このように社会の目が大きく幼児期の教育・保育に寄せられる中、この秋田大会は、大会テーマを「子どもたちの幸せを約束するために」とされました。まさに保護者自身が子どもの幸せを創るのだという、保護者の皆様の強い信念と深い愛情を感じるテーマです。私ども国公立幼稚園は、地域のセンター的役割を担い、PTAの皆様と手を携え合って、幼児の豊かな成育環境を創造してきています。幼稚園と家庭と地域の三者の連携・協力によって、様々な幼児教育の課題に、前向きに取り組み、総力をあげて最善の努力をしております。この大会を通して、子どもを中心に「絆」を結び、皆様とともに学び合い、確かめ合う機会となりますことを祈念いたします。

結びになりますが、本大会の開催に当たり、多大なご尽力をいただきました全国国公立幼稚園PTA連絡協議会並びに秋田県国公立幼稚園PTA連絡協議会の皆様、秋田大会運営委員会の皆様に感謝申し上げますとともに、ご支援いただきました秋田県、秋田県教育委員会、秋田市、潟上市、秋田市教育委員会、潟上市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。



祝 辞

全国国公立幼稚園 PTA 連絡協議会

顧 問 萬里小路 伸一郎

第 52 回全国国公立幼稚園 P T A 全国大会「秋田大会」が、美の国あきたの県都秋田市において、このように盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げますとともに、開催にご尽力、ご協力頂いた方々に衷心より御礼申し上げます。

さて、義務教育就学前教育の大変革である「子ども子育て支援新制度」の施行を目前にして、全国で、行政も民間の法人も、様々な思惑のなか、その対応を模索している状況ではありますが、いまひとつ全体像が見えてこない現状にあります。その不透明さゆえに、これからの幼児の育成環境、特に、国公立幼稚園が 1 4 0 年近く培ってきた我が国の質の高い幼児教育を維持できるかの不安が付きまといまいます。しかしながら、幼児と幼児教育を守る責務を第一に課せられているのは、実際に子育てをしている保護者であり、幼児教育現場を預かる幼稚園教諭並びに職員であると確信します。

世論やマスコミはどうしても特異な事例や極端なケースを話題にしがちですが、我々は地に足がついた実質的な議論をすることで、現実的な考えを持ち、有効な行動をとることによって、国公立幼稚園とその幼児教育を守り向上させなければなりません。

全幼 P は、そのような議論と活動ができる数少ない組織の一つであると自負していますし、さらなる向上を目指して、昨年、猪木直樹会長のもと、大関敏寛副会長をはじめ優秀な役員を布陣し組織強化を図りました。

そのような中、新制度施行直前の全国大会であるこの秋田大会が、「子どもたちの幸せを約束するために」をテーマに開催されることは誠に時宜を得たものであり、皆様のご研鑽ご尽力により、実り多い大会となることを心からご期待申し上げます。

終わりにになりましたが、本大会のご成功と、ご参会の皆様のご健勝ご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。



平成 26 年度優良 PTA 文部科学大臣表彰

岩手県	奥州市立南都田幼稚園 PTA
福島県	白河市立五箇幼稚園 PTA
東京都	江東区立南陽幼稚園父母と教師の会
山梨県	甲斐市立しきしま幼稚園 PTA
静岡県	静岡市立安倍口幼稚園 PTA
静岡県	浜松市立宮口幼稚園 PTA
大阪府	大阪市立真田山幼稚園 PTA
大阪府	堺市立白鷺幼稚園 PTA
岡山県	奈義町立滝川つくし幼稚園 P T A
岡山県	高梁市立落合幼稚園 P T A
徳島県	小松島市立江幼稚園 PTA
香川県	坂出市立坂出中央幼稚園 PTA
愛媛県	八幡浜市立神山幼稚園 PTA



全国国公立幼稚園 PTA 連絡協議会会長表彰

京都府	萬里小路伸一郎	前全国国公立幼稚園 P T A 連絡協議会会長
東京都	今 井 昇	前全国国公立幼稚園 P T A 連絡協議会副会長
東京都	岩 城 眞佐子	前全国国公立幼稚園 P T A 連絡協議会副会長
東京都	山 本 三起子	前全国国公立幼稚園 P T A 連絡協議会監事
京都府	新 司 英 子	前全国国公立幼稚園 P T A 連絡協議会事務局長



全国国公立幼稚園 P T A 連絡協議会会長感謝状

島根県 島根県幼稚園 P T A 連合会

第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会「秋田大会」

大会宣言文

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、昭和38年に結成して以来、半世紀にわたり幼児教育の振興発展に寄与すべく、営々と活動を積み上げてきました。

人間形成の基礎を培う極めて重要な幼児期には、「子育て」を支えるうえで「親育ち」が必須の鍵であると考えます。子どもと親の育ちを磨くために私たち全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、育児は「育自」であることに誇りをもった教育団体として、すべての子どもたちに質の高い幼児教育を保障しながら成長するためにも、あらためて幼児教育の意義を再認識する必要があります。

人は誰でも幸せを求めつつ生きています。子どもの幸せを大人になって位置づけるのは間違いではありませんが、子どもには子ども時代そのものにおける充実感や達成感にこそ、幸せがあるのだと思います。つまり、子どもたちの成長と発達の支援をきちんと大人が約束しなければいけないことです。幼児教育は、子どもたちが幸せを体験・実感できる場や機会、条件をさらに整えていくことと考えます。豊かな自然と文化に溢れた日本のふるさとを愛し、ふるさとの恵みから多くの経験と多くの人との絆を大切に、「生きる力」の基礎を育む楽しさを広めていきたいものです。

生涯学習と質の高い幼児教育の推進を大きく謳いあげ、活動を展開中の秋田から一層はばたき、全国へ発信し実りある大会であるよう、「子どもたちの幸せ」を約束するため、ここに宣言します。

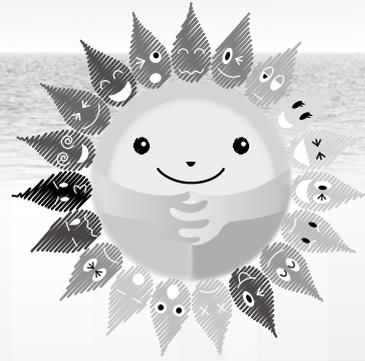
- 一. 園・家庭・地域との連携を図り、教育環境の充実に貢献します。
- 一. PTA活動を通して、さらなる生涯学習意欲を高めます。
- 一. 子どもと園の安全・防災管理を充実し、自助と共助の意識を強化します。
- 一. 幼児教育諸条件整備を促進し、振興の発展に努めます。

平成26年8月10日

第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会 秋田大会

記念講演

Memorial Lecture



なに？ 何？ 何見つけた〜?!



スキー場のとっぺんに、みんなで登りました。

記念講演

ふるさとの 愛と命を子どもたちに

女優 浅利 香津代氏



■プロフィール

☆本名 浅利 和子（秋田市出身）

☆秋田大学学芸学部附属中学校では、演劇部・バスケット部に所属。
秋田県立秋田北高等学校では、演劇部活動のかたわら、応援団長としても活躍。

☆日本大学芸術学部演劇学科卒業後、新劇・新人会に入団、女優・望月優子にも師事し新人会には8年間所属。退団後、劇団・前進座に入団、中村翫右衛門に師事。10年間在団後フリーとなり現在に至る。日本舞踊・地唄舞の名取りでもあり、三味線もこなす。

☆舞台

- 水上 勉 作・演出「釈迦内枢唄」藤子役にて文化庁芸術祭優秀賞受賞。
- 近松門左衛門 原作「曾根崎心中」で、関西十三夜会賞受賞。
- 井上ひさし 作「雪やこんこん」和子役にて紀伊國屋演劇賞受賞。
- 宮本 研 作一人芝居「花いちもんめ」にて関西十三夜会賞受賞。
- 秋田の田沢湖神代出身の「秋田おばこ」を大成した民謡歌手・佐藤貞子の一生を描いた「貞子—秋田おばこ物語—」を自主企画・主演にて全国公演をする。
- 秋田の赤い靴の少女の実話を舞台化した一ひとり芝居「足の裏の神様」も目下全国公演中。
- 他、商業演劇で北大路欣也・松平 健・里見浩太郎座長公演等ひと月公演にも数々出演。

☆テレビ

- NHK朝のテレビ小説「雲のじゅうたん」「おていちゃん」「ひまわり」また大河ドラマでは「春日局」「炎立つ」「葵・徳川三代」のレギュラー出演
- 民放では「水戸黄門」「暴れん坊将軍」「子連れ狼」「長崎ぶらぶら節」「忠臣蔵」「京都地検の女」等、多数出演

☆映画

- 「鹿鳴館」「薄化粧」「伊能忠敬」「千年の恋・ひかる源氏物語」
- 市川 崑 監督「鹿鳴館」、山田洋次監督「息子」「学校Ⅱ」、松山善三監督「虹の橋」、朝原雄三監督「釣りバカ日誌⑮」等、多数出演

☆受賞

1981年・昭和56年

秋田県文化団体連盟賞受賞

1995年・平成5年

秋田県民謡協会 特別功労賞受賞

2009年・平成21年

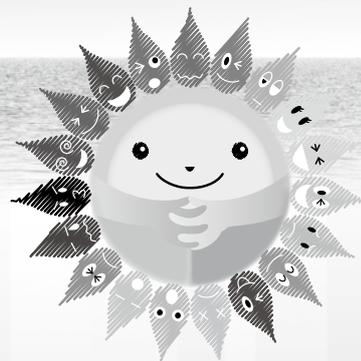
秋田市文化功績章受賞

秋田県藤里町芸術文化協会特別表彰受賞

※あくなき探求心と積極性で多方面にその才を発揮し、講演会などで人間の生き方を語り、地方の興隆を念ずる得がたい文化人でもある。

提案発表

Announcement of Proposals



♪おおかみさ～ん、おおかみさ～ん!! 曲に合わせて。



大きなじょうろで水かけ中!



心通わす架け橋づくり

～子どもたちの笑顔のために～

北海道 札幌市立中央幼稚園 P T A

プロジェクトチーム 佐々木 千 夏

1. はじめに

札幌市は昭和 47 年に指定を受けた日本最北の政令指定都市で、人口 190 万人を超える街です。年間平均 597 cm の積雪量が観測され、これだけの降雪地域に大都市が存在するのは世界的に稀だそうです。

同じ昭和 47 年には、札幌で日本初の冬季オリンピックが開催され、これを機に観光都市としても世界的に知られる街になりました。



札幌雪まつり 氷の滑り台で

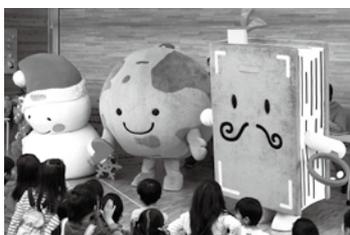
2. 本園の概要

開園 36 年目の中央幼稚園は、平成 22 年に市立札幌大通高等学校と一緒の新園舎に移転しました。札幌

中心部の中央区に位置しますが、北海道大学植物園、知事公館、北海道立近代美術館、大通公園などが周辺にあり、緑に恵まれた環境にあります。

園の教育目標は「たくましい子・考えて行動する子・なかよく遊べる子・素直で心豊かな子」です。遊びを中心とした集団生活の中で、一人一人の健全な心身の基礎を培う教育がすすめられています。恵まれた環境からも、自然に触れることを大切にし、充実した環境で幼児期を過ごすことができます。

札幌市には『札幌らしい特色ある学校教育』として、「雪・環境・読書」の三つのテーマがあります。ふるさと札幌に立脚して、学ぶ力や豊かな心、健



ゆっぼろ・ちつきゅん・おっほん

やかな身体など「生きる力」を育み「自立した札幌人」の育成を目指し、幼小中高すべての学校が共通に取り組んでいます。

降雪期間が長い札幌では「雪」はとても身近です。冬になると園の駐輪場は一変、そり置き場に姿を変え、園児は全身防寒着を着て雪遊びです。日曜保育参加は、園に来る機会の少ない保護者を対象として毎年 1 月に行われ、親子で雪に親しむ機会になっています。

「環境」においては、『環境を大切にする気持ち』の芽生えを育むために、さまざまな取り組みがなされています。その一つに、併設する大通高校と行っている、養蜂から製品開発までを行う『ミツバチプロジェクト』があります。養蜂見学を行い、『はちみつ』という自然の恵みに感謝し、自然に関心を持つ心を育みます。



オータムフェストで高校生がはちみつを販売する際は、園児はミツバチに扮してお手伝いをします。



「読書」は、子どもの将来を見据え、生涯にわたる学びの基盤を培う学習活動のテーマです。月刊絵本は園で味わったのち、家庭でも継続して浸り、学びの基盤を育てています。PTAでも寄贈本などを管理し、園の図書と同じく貸し出しており、家庭でも気軽に親子で本に親しむ時間を保つことができます。

3. PTAの活動方針と運営

1) PTA組織について

会員は役員会、学級代表委員会、専門部委員会のいずれかに所属し、学級の交流活動も並行します。

札幌の市立幼稚園は、平成 24 年には 17 園から 10 園になり、地域に限らず区を超えた通園が増えています。PTA活動は保育時間内が主で、母親中心です。

2) 活動方針と活動テーマについて

PTA基本方針は「幼稚園教育の理解と推進、園の教育環境の整備と充実に協力する。会員の研修と会員相互の親睦を図ることを目的とし、子どもたちを共に育てていくという共通理解を持ち活動する。会員が活動に関わる中で交流し親睦を深め、支援し合いながら活動を進める。」とあり、幼稚園教育を理解し支援する形で存在し、会員同士の親睦を大切にしています。



活動テーマは『心通わす架け橋づくり～子どもたちの笑顔のために～』です。これには「これまでのPTA活動の成果を生かして、保護者自身が楽しみながら活動し、親睦を深められるようにする」という継続的に展開していく活動への期待に加え、「子どもたちを共に育てていくという共通理解のもと、親子・保護者同士・他の子どもとのつながり、そして教師が関係性を強め、保護者・教師が子どもたちと共に成長できる活動とし、子育ての喜びを共有したい。」という思いが込められています。活動方針に活動テーマを設けることで、これがスローガンとなり活動の軸となっています。

この活動テーマに沿って、各委員会がそれぞれの活動テーマも持ち活動します。各委員会の基本的な活動方針はありますが、例年、「これをすべき」という活動はなく、会員数や実状を考慮し無理のない活動の精選を大切にしており、年度毎に自由な発想と形で活動が展開されます。主体的に活動するスタイルは、中央幼稚園PTAの特徴といえます。



3) 運営について 茶話会での学級テーマの掲示

年度初めに活動テーマに沿った活動計画を立案し、内容を精選していきます。実施に当たっては、活動テーマに沿っているか、無理のない活動かを役員・専門部部長・各学級代表からなる運営委員会で検討します。活動後は部で振り返りを行い、運営委員会で報告します。年度末には次年度への展望を含め成果を共有します。そのことが事業反省書として引き継がれ、これにより活動は単年度で終わらず次年度に生かされています。また、運営委員会で活動内容の検討と活動報告を重ねることで横のつながりが持て、活動単位にとどまらず各委員会が協力しあった活動ができています。

4. 平成25年度の主な活動紹介

1) 役員会

市立幼稚園間の情報交流や、市立小・中学校との交流など、外部との連携を担当します。園内においては活動基本方針をおさえ、運営委員会を進行し、ボランティア活動を含めたPTA全体をサポートする『縁(園)の下の力持ち』です。

園の教育環境の整備・充実面では、PTA予算を加味して会員に協力を発信します。昨年は園児が使用するビブスの買い替えが必要になり、幼稚園のシンボルマーク『ちゅうおうちゃん』のワッペンがついていない安価な物を選びました。「物を大切に作る気持ちを育てたい」と、出費も抑える点から、ボランティアを募り、古いビブスからワッペンを取り外し、新しいものに縫い付

けて再利用することにしました。自宅でのミシン作業では「ママがみんなのためにお手伝いしてくれている」という、子どもからの予期せぬうれしい言葉に励まされ、PTA活動の意味を確認できました。古いビブスは脇をゴムで補正して、大人用に加工し Reduce & Reuse しました。

花壇ボランティア活動では、園・専門部・有志・地域の連携を大切に、ボランティアの発足から活動を支援します。文化部による生ごみ堆肥の学習会と、地域の生ごみ堆肥化循環事業への参加、行事部による花壇準備、



花壇ボランティア作業の様子 夏休みを挟んだ花壇のお世話、活動の振り返りと、今後の展望を提示するなど、一連のサポートです。

2) 学級代表委員会

同じ年齢の子どもを持つ会員同士の茶話会・学級レクなどを企画・運営します。学級レクは、教師の助言を参考に、発達やアレルギーを考慮し、親子ゲームやおやつなど、皆が楽しめるよう、準備段階から親睦を深めつつ学級で取り組みます。

保護者が送迎を行う当園は、これまで登降園時の顔を合わせる時間帯に、PTA活動に関する連絡を取ってきました。しかし昨年は預かり保育試行により、登降園時に会えない方が増え、自然な動きで各クラスが「PTA学級だより」を発信するようになりました。活動に参加しやすいよう行事日程を早めにお知らせし、活動に参加できない方にクラス活動の様子を伝え、活動を共有できるような工夫が始まりました。どのクラスも、『つながり』を大切にしたいとの思いからでした。

PTAでは、入園・修了のお祝いとして園児に手作りの胸花を贈ります。昨年度は学級代表委員会が中心になり、「子どもたちを共に育てていく」という部分を共通理解し、これを提示して作成有志を募り、作業工程に未就園児連れでも参加しやすい3日間の作業日を設けたところ、たくさんの自主参加がありました。毎回セッティングされるお茶を飲む休憩スペースは、学年や所属委員会の違う会員の楽しい交流の場になりました。「親睦」と同時に、真心も受け継いでいこうという気持ちが育まれた活動になりました。

3) 専門部委員会

① 文化部

「お母さんにも、心ふれあえる仲間を見つける架け橋を～笑顔あふれる毎日を」をテーマに、5回の企画講座と、本の紹介・PTA文庫の管理を行いました。

地域の方を講師に招いた『生ごみ堆肥化講習会』『大

人の浴衣着付け教室』では、知識だけでなく、地域の活動を知り、地域の方との触れ合いの貴重な時間でした。『ロミロミ



講座』、『大人のストレッチ教室』は心身をいたわり、リフレッシュの機会になりました。『アレルギー学習会』は気軽に話せる茶話会スタイルで、園のアレルギー対応の実際を園長先生からお聞きし、アレルギーの子どもへの配慮などの情報交換を行いました。アレルギーを持つ子ども、無い子ども、皆で共に育てようという思いが高まった企画でした。いずれも学年を超え「心触れ合せ」「笑顔の多い」学びの時間を過ごすことができました。

② 行事部

園内の親睦を深める行事などの企画運営にあたる行事部は、2回の親子行事と、春と秋に美化活動を行いました。

去年は、『札幌らしい特色ある学校教育』を親子行事に取り入れました。秋は中央幼稚園のキャラクター『ちゅうおうちゃん』と「環境」について学び、親子で牛乳パック車を作って空き箱の町で遊びました。冬は広い雪のグラウンドで親子レクを行い、その後に室内で『ちっきゅん』『ゆっぼろ』『おっほん』と触れ合い、大型絵本の読み聞かせが行われました。親子で楽しい時間を過ごせた行事でした。

『クリーン&ティールーム』と称する美化活動では、地域の方とゴミ拾いをして、園周辺の花壇整備を行います。未就園児連れの会員は園内で絵本の補修作業に携わり、美化活動の後はティールームで親睦を図ります。ティールームではミニ講座やPTA活動紹介など、各委員会も協力した企画が満載でした。

③ 広報部

広報紙『つくしんぼ』を3部作りました。春の親子遠足前に発行した『親子と先生たちの紹介冊子』は、新入園児と園全体を『親睦』という和でつなげる役割を果たしました。随時配布することで途中入園者にとっても、幼稚園に慣れる手助けになったようです。



『号外号』は1学期のPTA活動の取材記録で、PTA活動や講演会の内容・感想などを掲載し、参加できなくても活動を味わえ、その後のPTA活動への参加の後押しになりました。

集大成の『77号』はPTA紹介や併設する大通高校

との交流の歴史など盛りだくさんの内容で、手書きのページが混じる、温かみあるものです。札幌市PTA広報紙祭りでは、手作り部門で最優秀賞を受賞しました。3紙とも他にはない、会員の自由な発想から生まれた広報紙でした。

5. PTA活動の成果と課題

平成25年度の活動を振り返ると、会員の発想が生かされた様々な活動が行われました。すべての活動が、活動方針にある『親睦』『つながり』『子どもたちの成長』を大切にしていることが分かります。年度末の活動の振り返りでは、『大変だったけど楽しかった』『素敵な仲間にもぐり合えた』などの感想が寄せられました。これは、会員が活動テーマを共有し、同じ目的を持って、主体性のある活動を進められた結果であり、これにより達成感が得られたのだと思われます。活動方針に活動テーマを設定し、これをスローガンとしたこと、そして活動テーマを共有できた成果と考えます。

これからも活動テーマを共有し、同じ目的を持つことができれば、参加の形は変化しても、活動は実を結ぶと実感できました。昨年度はPTAの活動紹介や活動報告の場で、活動方針と活動テーマの意味を解説する機会が幾度かありました。この取り組みも、活動テーマ共有の近道になったと思います。今後も、活動テーマを持つこと、そして、会員の状況に合わせた共感できる活動方針と活動テーマの設定を行い、共有に向けた取り組みも継続する必要があると考えます。

6. 今後の展望

本園では就労支援の目的で、8時～18時の預かり保育が4月から本格実施になりました。登降園時の送迎には、父親や祖父母の姿も増え、就労する会員は増加しています。これまでの母親中心の活動スタイルを変化させていく時期が訪れた印象です。母親以外の視点が加わることで視野が広がり、さらに活動の充実が期待できます。

今後は、母親以外の家族と、就労している会員も参加しやすい活動スタイルへ変化させ、様々な家庭背景を持つ会員家庭の子どもたちへの配慮も必要になります。これまでの成果から、活動テーマを共有し、同じ目的を持つことができれば、活動は実を結ぶという確信があります。そのためにも、参加者一人一人がテーマを共有し、同じ目的を持てるPTA活動を目指していきたいと思えます。

「子どもたちの笑顔のために」「心通い合う仲間」として、「つながり」「共に成長し」「育んでいける」という自信を持って、学び培ってきたことを架け橋として、笑顔を送らせていくことを支えとし、子育ての原動力にしていきたいと思えます。



我が園のPTA活動

奥州市立羽田幼稚園

平成25年度PTA会長 佐藤 勉

1. はじめに

本園がある奥州市は岩手県南に位置し、水沢市、江刺市、胆沢町、前沢町、衣川村の五市町村の合併により平成18年2月に誕生しました。西に連なる奥羽山脈、南北に流れる雄大な北上川など豊かな自然に恵まれ、前沢牛、江刺りんご、といった様々な特産品があります。その中でも、本園のある水沢区(旧水沢市)は、日本一大きな茅葺屋根の正法寺が有名である他、高野長英、後藤新平、斎藤実を生み出した偉人の町でもあります。また、南部鉄器は本園の地元羽田地区の伝統工芸であり、地区内にある東北新幹線の水沢江刺駅には日本一大きな南部鉄器の鉄瓶が飾られています。

奥州市には公立の幼稚園が15園あり、その一つである羽田幼稚園には、3歳児11名、4歳児11名、5歳児9名の計31名が在籍しています。羽田幼稚園は羽田地区唯一の幼稚園であり、保育園もないことから、地区内に住む同年代の半数以上が羽田幼稚園に通います。幼稚園の登降園は保護者による送り迎えです。日々の送り迎えで自然に保護者間のコミュニケーションがとれるため、お互いに教え合ったり、助け合ったりして、子ども達の園生活をサポートしています。

羽田地区には、幼稚園から約1km離れたところに羽田地区唯一の羽田小学校があり、羽田幼稚園に通うほとんどの子が羽田小学校に進学します(他幼稚園、保育園からの入学もあります)。子どもだけでなく保護者も幼稚園からのつながりがあるため、安心して小学校へ進学することができます。幼稚園で行う運動会には小学生の

招待レースがあり、卒園児はもちろん、卒園児でない子も参加してくれたり、遊びに来てくれたりします。また、地元の祭りで防火パレードを披露したり、敬老会で踊りを披露したりと、羽田地区に根ざした幼稚園になっています。

2. PTAの組織と内容

○組織

- 会長1名、副会長3名(園長も含む)
- クラス役員7名、監査2名
- 事務局1名(幼稚園の園長補佐)

○内容

<会長>

- ・総会の開催、進行
- ・役員会の開催、進行
- ・PTA奉仕作業開催

<副会長>

- ・バザー及び研修会、環境整備活動の企画と運営(2名の副会長がそれぞれに分かれてリーダーになる)

<クラス役員>

- ・研修会や行事協力のクラスのとりまとめ
- ・スナップ写真振り分け協力の呼びかけ
- ・茶話会への参加の誘い

<全役員に係わるもの>

- ・運動会、夕涼み会、発表会への協力
- ・PTA研修会への参加
- ・ベルマークの集計

<全会員に係わるもの>

- ・PTA活動(奉仕活動、夕涼み会の準備)への参加、協力
- ・バザーへの出品、購入
- ・ベルマーク収集
- ・スナップ写真振り分け



3. 活動内容について

○奉仕活動

6月の早朝作業で園庭の草取りと簡易プールの組み立てをします。プールの組み立ては以前に経験しているお父さんが先頭になって教えてくれるため、30分程で完成します。

9月の早朝作業では簡易プールの解体・片付けと、次の行事である運動会に向けて草取りをします。早朝とはいうもののまだまだ暑い日の作業で大変ですが、喜ぶ子ども達の顔を想像すると、作業の手に力が入ります。

3月には園舎内清掃があります。子ども達が気持ちよく幼稚園を巣立てるよう、そして卒園時の保護者は3年間の感謝を込めて、窓拭き、床拭き、玄関掃除をします。

○環境整備活動

今回の活動は各保育室前にあるテラスのペンキ塗りと砂場屋根の柱の腐食止めを計画しました。毎年少しずつ整備することで子ども達が元気に気持ちよく園生活を送られるよう園設備などのリフレッシュを図っています。今回は、リーダーである副会長が仕事上の経験者であったので、手際よく進めることができました。

○研修活動

保護者のスキルアップを目指し、毎年研修会を開催しています。今回は役員の中から「ヨガをやりたい」という要望があり、「ヨガ教室」を開催しました。ゆっくりと体をほぐしてリフレッシュすることができた



と大変好評で、次回も開催する予定です。反省として、全会員に呼びかけたものの、全会員の参加とまではいかなかったため、今後は全会員が参加できるような研修も検討していきたいと思えます。

○バザー開催

年々園児が減少し、バザー開催のための物品が集まらなかったり、購入する保護者が限られてしまったりと、様々な問題点が挙げられたため、今回は祖父母参観日に



合わせて開催しました。物品は、保護者から協力していただいた他に、地域のお餅屋さん（園児の祖父母が経営）から草餅とおこわを提供していただき、販売させていただきました。祖父母の方がたくさん購入してくださり、予想以上の収益を上げることができました。今回は収益金で、子ども達に人気のレゴブロックを購入しました。

○ベルマーク収集

本園では約50年前からベルマーク収集に取り組んでいます。一つ一つが小さい点数ですが、こつこつ集めることで、扇風機、加湿器など園環境を整えるための備品を購入しています。なお、保護者以外でも近所の方が集めたベルマークを持ってきてくださることもあります。

○スナップ写真の振り分け

幼稚園での様子を撮影していただいているので、学期ごとにスナップ写真の販売をしています。参加してくれた保護者がクラスごとに分かれ、集計と振り分け作業をしています。

(PTAで取り組んでいる活動の他にも羽田幼稚園独自の活動がありますので紹介します)

●茶話会

園の呼びかけによって参加できる保護者が集まり、交



親と子の絆を深める活動

～子供の笑顔のために～

富山県 富山市立呉羽幼稚園

PTA ありのみ会会長 谷岡 裕美

1. はじめに

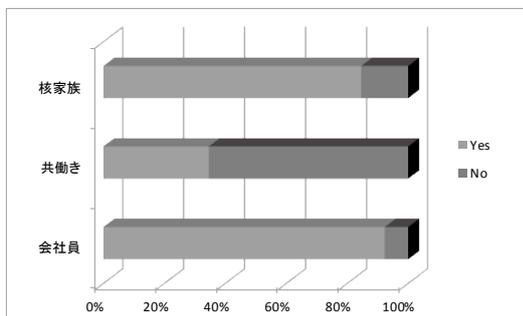
富山県は北陸に位置し、標高 3,000m 級の立山連峰から水深 1,000m の富山湾まで、高低差が 4,000m もある地形が特徴です。富山市は県中部にあり、当呉羽幼稚園のある呉羽町は、富山市北部に位置しています。幼稚園は、呉羽駅から徒歩 1 分、閑静な住宅街の中に建っています。

富山県	人口	1,074,000 人 (H26.2)
富山市	人口	419,000 人 (H26.2)
	0～5 歳児	20,680 人 (H25.3)
	幼稚園児	3,912 人 (H25.3)

2. 本園の概要

呉羽幼稚園は昭和 32 年「私立呉羽幼稚園」として創立し、昭和 40 年に富山市に移管されました。本園は 2 年保育で、昨年度は園児数 26 名と大変小規模な幼稚園ですが、保護者と園が協力して幼児の教育に取り組んでいます。呉羽は梨の名産地で、春は梨の花見、秋は梨もぎを体験できます。すぐそばには、JR 呉羽駅、コミュニティバスの停留所があり、公共交通機関を使って出かけられるという、大変環境に恵まれた地域にあります。

【本園の家庭状況】



教育目標は「心身ともに健康な子の育成」と掲げ、「明るく元気な子供」「よく考えて最後までやり抜く子供」「思いやりのある子供」とし、知・徳・体と調和のとれた子供の育成を目指しています。

3. PTA の組織と活動内容

- 役員 会長 1 名、副会長 2 名
- 会計 1 名・監査 2 名
- 書記 1 名
- ありのみ編集委員 3 名
- 学級代表 4 名 (各組 2 名)

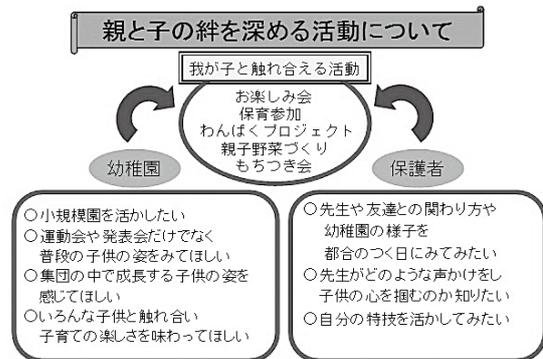
【主な活動内容】

- ① 園行事の運営補助や環境整備
 - ② 機関紙「ありのみ」の編集・発行
 - ③ PTA 事業の推進
 - ・総会開催
 - ・わんぱくプロジェクト (H25)
 - ・お楽しみ会、園祭、餅つき会等
- ☆「全国大会への道」の編集・発行 (H25)

先生方と保護者が協力して制作チームをつくり、作業を進めていく中で、全体で情報を共有し、発表へのモチベーションをあげていくためにこの「全国大会への道」を活用してきました。

4. 親と子の絆を深める活動について

幼稚園・保護者双方の意見を基に話し合った結果、企画や準備に重点を置いた PTA 活動から我が子と直接触れ合うことに重点を置いた活動をするにしました。そこで昨年は、お楽しみ会、保育参加、わんぱくプロジェクト、親子野菜づくり、餅つき会等、親と子の絆を深める活動を実践することにしました。





5. 実践の姿（実際の活動の紹介とその成果）

(1) お楽しみ会

これまでPTA活動の大きな行事には、園祭というものが、毎年恒例行事でした。しかし、園児減少傾向で保護者負担が大きいと、企画や準備は既成のものを利用し、当日親子で楽しむことに重点を置いたお楽しみ会をすることにしました。夏休みに入った7月の日曜日に、自然の中で様々な体験を通して親子の絆を深める目的で、「富山県呉羽青少年自然の家」を利用しました。園児が主役となれるよう兄弟姉妹の参加は遠慮してもらいました。親子4～5組が一つのグループになり、当日参加したお父さんが隊長です。オリエンテーリングから始まり、ザリガニ釣り、いかだ遊び、ターザンロープ等、冒険をしているようなワクワク感を味わうことができました。特に竹を使った「流しそうめん」は大好評で、食べるよりも取ることに夢中でした。保護者にとっても普段は見られない友達同士のやりとりや、いろいろなことに挑戦しようとする姿を見ることができ、充実した一日になりました。

(2) 保育参加

年間を通して保護者が幼稚園の活動に参加できる機会が二つあります。一つは、自由なテーマで自分たちの特技を活かして子供たちと触れ合う活動で、40分程度のもので、幼稚園が年間日程を組み、希望者を募ります。毎回1～3人の保護者が先生になります。内容については、企画から先生に相談する場合と企画・準備から保護者で進めていく場合があります。保護者はそれぞれ特技を披露したり、子供たちと一緒に製作活動をしたり体を使って遊ぶなど、活動内容は様々です。園児は「次はいつ来てくれるの？」と大喜びしてくれます。家庭内ではみられない友達や先生方との触れ合いを通して、子供の成長を肌で感じられるため保護者に好評です。

もう一つは、誕生会のおやつづくりです。月に一度、修了児のお母さん方、保護者と年長の当番児が協力して行います。今まで、鯉のぼり型のクレープやあべかわパスタ等が登場しました。子供たちは毎回季節感溢れる手づくりの器とおやつを楽しみにしています。その器は家に持ち帰り、家族に誕生会の様子を話すなど、親子のコミュニケーションづくりに役立っています。いろいろな分野に詳しい修了児のお母さん方と協力することで、活動の幅が広がるだけでなく、季節を感じたり栄養面を意識するなど、保護者の間でも大変好評です。

(3) 野菜づくり

食育の一環として園庭での野菜づくりがあります。親子で苗植えから収穫までを一緒に行います。子供たちは毎日の水やりを通して自分の野菜が花を咲かせ、実を付

けることに驚き、その生長を喜んでいました。収穫した野菜は、各自家に持ち帰ったり、幼稚園で地域の方を招いてカレーパーティーを開く時に使っています。親子で野菜づくりをすることで、植物の生長と収穫の喜び、食べ物を大切に作る気持ちを共有しています。また、さつまいもも園庭でつくっています。秋には、園児が先生と一緒にさつまいもを掘り、その姿が見えてくると、「先生、あったよ」と目を輝かせていました。後日、さつまいも汁をつくり、おいしくいただきました。

(4) 笑顔いっぱい・わんぱくプロジェクト

富山市公立幼稚園PTA連絡協議会最大のイベントです。各園との交流を目的に、年に一度、日曜日に開催します。昨年は、呉羽幼稚園が会長園として、企画・運営指揮をとり、富山市体育館にて親子造形教室を開催しました。6月9日当日には250組の親子が参加しました。富山大学の先生と学生をお迎えし、皆で協力してダンボールをつなげていくと、ダンボールの王国がわずか30分で出来上がりました。子供たちは、目を輝かせながら夢中で広い「王国」内を冒険し、他の幼稚園の友達とも遊ぶことができました。お父さんが次々と組み立てると、子供は「どうしてパパは何でもできるの?!」と尊敬している様子でした。また、大勢の人が集まれば、ダイナミックで楽しいことができると感じられる活動となりました。

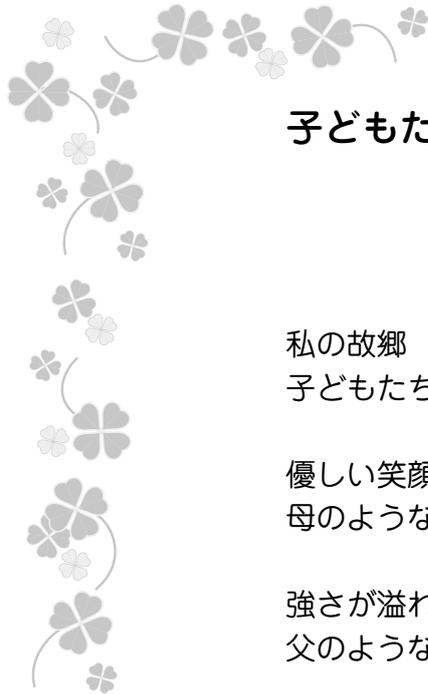
(5) もちつき会

毎年12月に、昔ながらの臼と杵を使って、もちつきをしています。最初にお父さん達がもちをつき、その後、園児一人一人が杵を持って「ヨイショ」の掛け声でもちをつきます。出来上がったもち、お母さん達が「いそべもち」「あんこもち」「きなこもち」「ごまもち」にします。今では、スーパーで手軽に手に入るおもちですが、もち米から出来上がる過程を見ることができ貴重な機会となっています。園児は自分でついたおもちが美味しい様子で、「もっと食べたい」とおかわりをします。保護者にとっても、日本の伝統食や行事について子供と話すよいきっかけとなっています。

(6) 勤労奉仕

年に3～4回、園児が安全に思い切り活動できるように、園庭の草むしりや園内清掃を行っています。活動は午前中1～2時間程度、期間は2～3日と設定し、役員も含め保護者は都合のつく日を選び参加します。生活スタイルが多様化する中で、全員が一度に集まれる場は多くありませんが、こうすることでほぼ全員が参加できます。園児も一緒に草むしりをしています。活動後はお茶の時間を設け、年中・年長組の杵を超えて保護者同士が気軽に会話ができる場となっています。

秋田からのメッセージ



子どもたちの幸せを約束するために

作詞・曲
秋田大会運営委員長 大関 敏寛

私の故郷 育み満ちて
子どもたちに伝えたい 大いなる故郷

優しい笑顔に 心が和む
母のような温もりを 子どもに伝えよう

強さが溢れて 汗にまみれた
父のような逞しさ 子どもに伝えよう

言葉の力は 絆深める
人の支え 思いやり 明日に伝えよう

風耐え負けぬと 稲穂は伸びて
黄金に夢 咲き実り 明日に輝こう

遊びは培う 生きる力を
希望豊かな大地で 子どもと向き合おう

緑の山々 杉が見守る
誇り美しき姿 明日も健やかに

澄む川流れる 海の蒼さも
永遠に素直で楽しく 明日を駆けまわろう

生まれた故郷に 私は誓う
子どもたちの幸せを 約束するために ああ

生まれた故郷に 私は誓う
子どもたちの幸せを 約束するために

子どもたちの幸せを 約束するために

ラララ・・・ ああ

